

沼田町化石館年報

Annual report of Numata Fossil Museum

第 22・23 合併号

Volume 22,・23

令和 4・5 (2022, 2023) 年度

The year of 2022 and 2023

2025 年 9 月印刷

Published in 2025 september.

目次

1. 沼田町化石館の概要

- 1－1. 沿革
- 1－2. 設置目的
- 1－3. 利用案内
- 1－4. 施設内容

【2022 年度】

2. 事業

2－1. 展示

- (1) 常設展示
- (2) 企画展
- (3) 特別展
- (4) 大規模展示改修
- (5) 展示協力

2－2. 教育普及

- (1) 化石採取会
- (2) ジュニア化石クラブ
- (3) 学校等団体受入れ
- (4) 町内における普及活動
- (5) 体験メニュー
- (6) 講演

2－3. 広報出版活動

2－4. 研究

2－5. 資料管理

3. 管理運営

3－1. 化石体験館利用状況

3－2. 組織と職員

【2023 年度】

2. 事業

2－1. 展示

- (1) 常設展示
- (2) 企画展
- (3) 特別展
- (4) 展示改修
- (5) 展示協力

2－2. 教育普及

- (1) 化石採取会
- (2) ジュニア化石クラブ
- (3) 学校等団体受入れ
- (4) 町内における普及活動
- (5) 体験メニュー
- (6) 講演
- (7) 教育普及を目的とした
執筆など

2－3. 広報出版活動

2－4. 研究

2－5. 資料管理

3. 管理運営

3－1. 化石体験館利用状況

3－2. 組織と職員

別紙1～3. 地質調査・化石発掘承認申請書（p 28～29）

1. 沼田町化石館の概要

1-1. 沿革

1985 年	2010 年
9 月 沼田歯鯨会設立.	8 月 化石体験館個人有料入館者数 5,000 人達成 (8/2) .
1988 年	2015 年
5 月 沼田町歯鯨会を沼田町化石研究会に改称.	4 月 田中嘉寛学芸員が着任.
1992 年	5 月 化石体験館個人有料入館者数 15,000 人達成.
4 月 沼田町自然史研究室を開設. 古澤仁学芸員着任.	2017 年
1998 年	3 月 田中嘉寛学芸員が離任.
4 月 古澤仁学芸員が離任し篠原暁学芸員着任.	4 月 松井佳祐学芸員が着任.
1999 年	田中嘉寛博士が特別学芸員に着任.
12 月 自然史研究室を取り壊しのため閉鎖. 旧社会福祉センターを沼田町化石館として移転.	5 月 化石体験館個人有料入館者数 20,000 人達成.
2000 年	2018 年
4 月 沼田町化石館オープン.	9 月 「沼田町化石体験館開館 10 周年記念イベント vol. 1 恐竜復元教室」を開催.
9 月 新属新種の化石ヌマタネズミイルカ <i>Numataphocoena yamashitai</i> が発表される.	10 月 「沼田町化石体験館開館 10 周年記念イベント vol. 2 化石博士集合」を開催. ヌマタネズミイルカが北海道の天然記念物に指定される.
2001 年	2019 年
4 月 篠原暁学芸員離任し山下茂指導員着任.	1 月 新属新種の化石ヌマタナガスクジラ <i>Miobalaenoptera numataensis</i> が発表される.
2003 年	2 月 篠原暁学芸員が離任.
8 月 山下茂指導員離任.	5 月 ヌマタネズミイルカ北海道天然記念物指定記念事業として、福井県立恐竜博物館一島啓人博士の講演会を実施.
2004 年	8 月 化石体験館個人有料入館者数 30,000 人達成.
4 月 篠原暁学芸員再任.	2021 年
2005 年	4 月 長野あかね学芸員が着任.
4 月 沼田化石研究会が発展的に解散.	5 月 化石体験館個人有料入館者数 35,000 人達成.
2007 年	
9 月 ジュニア化石クラブが日本地質学会年会 (札幌) で活動を発表.	
2008 年	
6 月 沼田町化石館展示室が終了.	
7 月 幌新温泉隣接の旧陶芸館跡に沼田町化石体験館がオープン (7/19) .	
2009 年	
7 月 1 周年記念行事として徳川広和氏の講演会を実施.	

2022 年

- 3 月 スマタネズミイルカ新復元骨格が完成.
- 4 月 化石体験館展示リニューアル (4/29) .
企画展「スマタネズミイルカのできるまで」
を開催.
- 9 月 化石体験館個人有料入館者数 40,000 人
達成. (9/10)
化石体験館入館券のデザインを変更.

2023 年

- 4 月 沼田町化石館旧レプリカ工房を閉鎖.
沼田町文化財収蔵センターに収蔵庫と
レプリカ工房を移転.
- 8 月 化石体験館 15 周年特別ナイト
ミュージアムを開催.
体験室を利用した新たな展示スペース
「進化の径」を開設.
- 9 月 スマタネズミイルカ貸出用新復元骨格が
完成.
- 10 月 化石体験館開館 15 周年イベント, 「む
かしといまのネズミイルカまみれ」を開
催.
- 11 月 化石体験館の看板のデザイン変更.

1-2. 設置目的

1. 沼田町の財産である化石を、町民に分かりやすく展示・普及すること。
2. 貴重な化石を地域で研究し、その成果を世界に向けて発信すること。
3. 学校や社会での要求が高まりつつある体験学習の場を提供し、その活動を支援すること。
4. 町内外の化石愛好者が交流を行う場を提供するとともに、その活動（友の会）の拠点となること。

1-3. 利用案内

沼田町化石館の施設は、レプリカ工房（市街地）と化石体験館（幌新地区）に分かれている。

（1）レプリカ工房

旧化石館は現在収蔵庫としての機能を残している。レプリカ工房の機能は一部を沼田町民会館に移し、大型脊椎動物の復元骨格作製や化石を母岩から掘り出すクリーニング作業を行っている。2023年4月に旧化石館を閉鎖し、同年9月より、沼田町文化財収蔵センターにて作業を行っている。

※見学は教育委員会への事前予約が必要。

【休館日】土曜日、日曜日、祝日

【時 間】8:45～17:15

【電 話】0164-35-2132（沼田町教育委員会）

【住 所】〒078-2204 北海道雨竜郡沼田町西町 493-9（沼田町文化財収蔵センター）

（2）化石体験館

ほろしん温泉ほたる館周辺のほたるの里に位置する。館内では、沼田町から発見された脊椎動物化石の復元骨格や無脊椎動物化石の展示の見学に加え、化石に関する様々な教育プログラムを行うことができる。

2023年4月1日に沼田町化石館条例の改正を行い、入館料を改定した。

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は開館）、祝日の翌日、冬季（11/4～4/28）

【時 間】9:30～16:00（最終入場は 15:30）。

【料 金】個 人：大人 500 円/小中高生 300 円

団 体：大人 400 円/小中高生 200 円

観 覧 の み ：大人 300 円/小中高生 100 円

年間パスポート：大人 800 円/小中高生 400 円

※町民および小学校入学前の幼児は無料。

※改定により、観覧のみ料金を追加。

【体 験】2-2、教育普及（5）体験メニューを参照。

【電 話】0164-35-1029

【住 所】〒078-2225 北海道雨竜郡沼田町字幌新 381-1

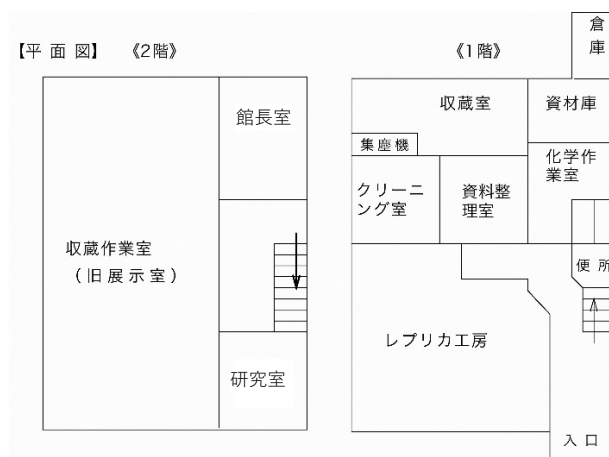
1-4. 施設内容

(1) 化石収蔵庫（旧沼田町化石館）

【住所】〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南1条2丁目7-49

【面積】322.29 m²

階	室 名	面 積	機 能
1階	レプリカ工房	59.49m ²	展示用のレプリカを製作
	クリーニング室	13.22m ²	ダイヤモンドカッター、エアスクライバによる岩石切削
	化学作業室	14.87m ²	酸による化学的クリーニングなどを行う
	資料整理室	13.22m ²	レプリカ母型の一時保管場所
	収蔵庫	24.55m ²	貝や散在骨化石を収蔵。重要標本は金庫で保管
2階	収蔵作業室	105.76m ²	大きなレプリカ母型やレプリカを収蔵
	館長室および研究室	19.30m ² +10.90m ²	博物館業務およびインターネットによる情報発信

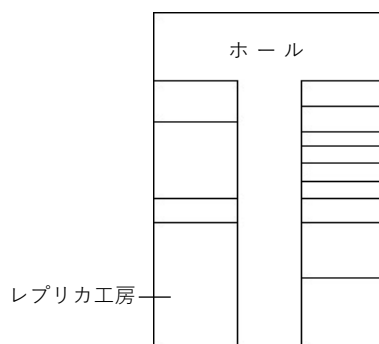


【別館】別棟（旧ふるさと資料館）にレプリカ母型などを収蔵.

(2) レプリカ工房

【住所】〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南1条1丁目9-11（沼田町民会館）

【面積】72 m²



2023 年 4 月 1 日より、化石収蔵庫とレプリカ工房は、沼田町文化財収蔵センターに移動した。

(1') 化石収蔵庫

【住所】〒078-2204 北海道雨竜郡沼田町西町 493-9 (沼田町文化財収蔵センター)

【面積】364.5 m² (化石収蔵庫：162 m³, レプリカ収蔵庫：202.5 m³)

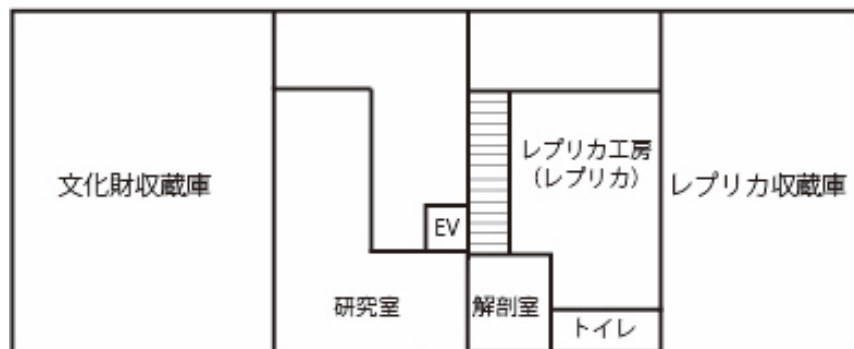
(2') レプリカ工房

【住所】〒078-2204 北海道雨竜郡沼田町西町 493-9 (沼田町文化財収蔵センター)

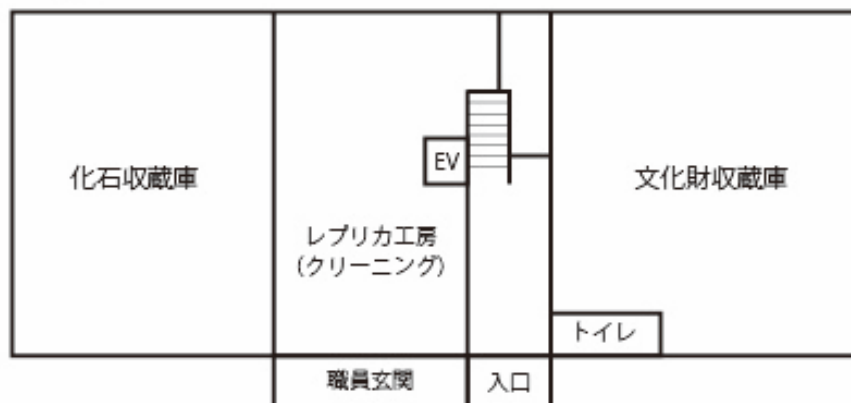
【面積】132.75 m² (クリーニング作業場：132.75 m³, レプリカ制作作業場：202.5 m³)

階	室 名	面 積	機 能
1	レプリカ工房 (クリーニング作業場)	132.75 m ³	化石の剖出作業を行う。
階	化石収蔵庫	162 m ³	主に実物化石を収蔵する。
2	レプリカ工房 (レプリカ制作作業場)	64.8 m ³	レプリカ制作を行う。
階	レプリカ収蔵庫	202.5 m ³	レプリカ母型やレプリカを収蔵する。
	研究室	96 m ³	学芸員の研究室。同室内に書類資料等を保管する。

《2階》



《1階》

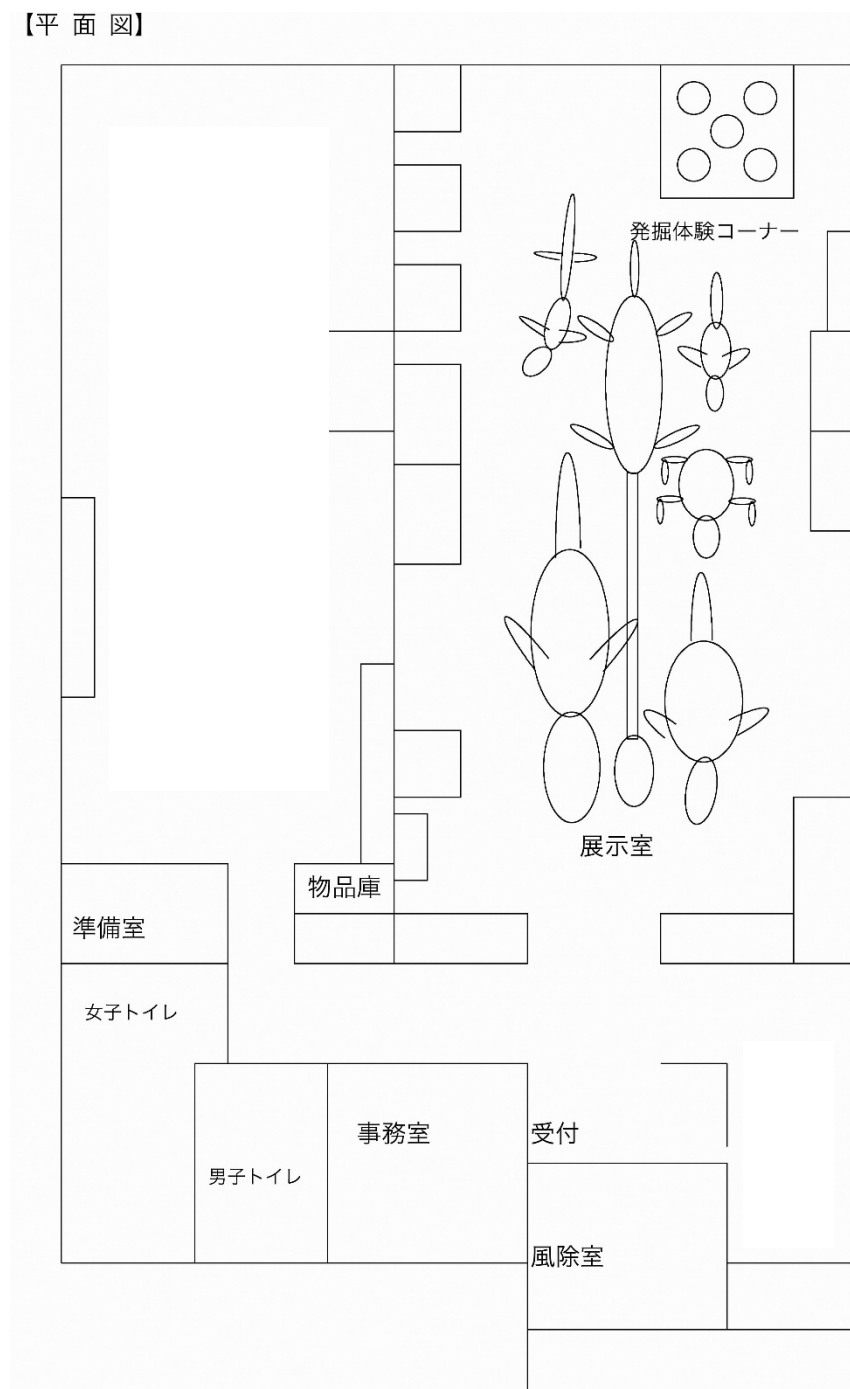


(3) 化石体験館

【住所】 〒078-2225 北海道雨竜郡沼田町字幌新 381-1

【面積】 333.6 m²

【平面図】



2022 年度

The year of 2022

2. 事業

2-1. 展示

(1) 常設展示

- ヌマタネズミイルカ、ヌマタナガスクジラ、ヌマタカイギュウ、モササウルス、および首長竜の復元骨格模型。
- タカハシホタテをはじめとする新生代軟体動物、植物化石、生痕化石、およびアンモナイトをはじめとする中生代白亜紀軟体動物化石の実物化石。
- 実物化石や岩石にさわることのできる「さわれる展示」。

(2) 企画展

春季に実施。ヌマタネズミイルカの新復元骨格の制作過程を紹介した「ヌマタネズミイルカのできるまで」をほろしん温泉ほたる館源氏の宿1階ロビーで実施した。

(3) 特別展

新型コロナウイルス感染症予防のため中止。

(4) 大規模展示改修

ヌマタネズミイルカの新復元骨格の展示にあわせ、化石体験館の展示を大規模リニューアルした。展示改修では、展示物を体系立てて整理し、ヌマタネズミイルカとタカハシホタテを展示の柱として設定した。新たな展示は、北海道新聞の取材を受けた。

(r1) ヌマタネズミイルカ

ヌマタネズミイルカを脊椎動物化石の目玉展示として、「導入」「発掘」「復元」「研究」のパートに分けて解説した。「導入」では、ヌマタネズミイルカの発見の経緯や発掘の様子を、写真資料やレプリカで紹介した。「発掘」では、ヌマタネズミイルカの産状模型とメッシュを配置し、写真資料に残る発掘の様子を再現した。「復元」では、新たに制作したヌマタネズミイルカの復元骨格と復元画、旧復元の復元骨格を配置した。「研究」では、ネズミイルカ科の派生形質や系統を、ネズミイルカ化石レプリカ展示とともに紹介した。

(旧展示)



(新展示)



1.「導入」パート。 2.「発掘」パート。 3.「復元」パート。 4.「研究」パート

(r2) タカハシホタテ

タカハシホタテを軟体動物化石展示の目玉として、タカハシホタテに絞り展示を展開した。具体的な展示は、タカハシホタテの名前の由来や殻構造の特徴について解説パネルを制作した。解説パネルをもとにタカハシホタテと現生ホタテを比較できるよう、さわれるタカハシホタテの実物化石とホタテガイの標本を配置した。あわせて、さわれるタカハシホタテの実物とレプリカを配置した。タカハシホタテの分布の変遷をまとめ、各時代ごとのタカハシホタテ標本を、地域別に展示した。沼田町から産出したタカハシホタテをまとめて展示した。沼田町で多くみられるフジツボ化石が固着する標本の展示や、成長段階ごとの殻形態の変化を示す標本を展示した。

(旧展示)



(新展示)



(r3) ヌマタナガスクジラ

ヌマタナガスクジラの支柱を隠すよう、展示台を制作した。また、ヌマタナガスクジラの特徴的な耳周骨を、新規製作した展示ケースに展示した。ヌマタナガスクジラの学名や発掘の様子を紹介する展示パネルを制作した。くわえて、鯨類の進化や多様性を紹介するパネルを配置した。

(旧展示)



(新展示)



(r4) スマタカイギュウ

スマタカイギュウの復元骨格の支柱を隠すよう、展示台を製作した。

(旧展示)



(新展示)



(r5) 整理した展示

以下展示物は、他展示との関連性を鑑みて撤去し、収蔵庫に収蔵した。

- ・ 鯨類産状模型 2 点
- ・ ハナゴンドウ骨格レプリカ
- ・ 幌新太刀別川産軟体動物化石
- ・ 羽幌産アンモナイト（清水/和田コレクション）
- ・ 化石体験館紹介動画用モニター

(r'1) ミュージアムグッズコーナー

8 月に展示室内にミュージアムグッズコーナーを新設した。



(r'2) ハンズオン展示

新型コロナウイルスによる行動規制緩和に伴い、8月にハンズオン展示の内容を再整理して再開した。



(5) 展示協力

■ほっかいどう恐竜・化石ネットワーク「みんなおいでよ！恐竜・化石大陸ほっかいどう展 2022 オータム」

【開催場所】イオンモール札幌発寒

【開催期日】10月1日（土）～10月2日（日）

スマタネズミイルカ産状模型、および解説パネルを提供。

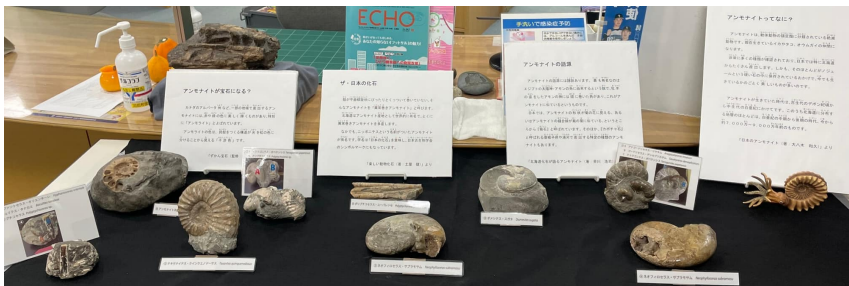


■沼田町図書館「アンモナイトの世界展」

【開催場所】沼田町図書館

【開催期日】11月1日～11月9日

北海道産アンモナイト標本9点を提供。



2-2. 教育普及

自然科学や化石にふれあうことを目的とした普及行事を、児童生徒から大人までを対象に実施している。

(1) 化石採取会

幌新太刀別川にてタカハシホタテなどの化石を1つ採取する。合計61名が参加した。

- ・第1回 【期日】7月9日(土) 【参加者】13名
- ・第2回 【期日】7月10日(日) 【参加者】17名
- ・第3回 【期日】7月16日(土) 【参加者】16名
- ・第4回 【期日】7月24日(日) 【参加者】15名

(2) ジュニア化石クラブ

子どもたち自らが、関心をもってより深く学ぶことにより新たな気づきや興味を引き起こすことを目的に実施している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止。

(3) 学校等団体受け入れ

化石体験館では社会見学や修学旅行等の学校行事、および団体の受け入れを行っている。

【講師】松井学芸員、長野学芸員

【内容】学芸員の解説による館内見学、ミニ発掘体験を行った。

(4) 町内における普及活動

■新規赴任教職員地域研修受け入れ

【期 日】7月25日(月)

【参加者】新たに沼田町に赴任した沼田小中学校の教諭15名

【講 師】松井学芸員

【内 容】松井学芸員の解説により化石体験館の見学を行った。

■沼田小学校地層見学会

【期 日】8月25日(木)

【参加者】沼田小学校、小学6年生15名

【講 師】松井学芸員

【内 容】幌新太刀別川におけるタカハシホタテの採取と地層の観察を行った。

■沼田中学校職業体験

【期 日】10月6日(木)

【場 所】化石収蔵庫、レプリカ工房、化石体験館

【参加者】沼田中学校、中学2年生2名

【内 容】長野学芸員の解説のもと、化石収蔵庫、および化石体験館を見学した。職場体験で学んだ内容は『沼田町化石館だより』130号にて発表された。



写真：沼田町より産出したクビナガリュウの標本をもとに，生徒が部位を推定する様子．

■「沼田っ子の夢応援事業」

【期 日】10月21日（金）

【場 所】宿泊交流センター「夢未来」

【参加者】沼田町立沼田小学校，小学5年生12名

【講 師】松井学芸員

【内 容】化石館の活動と，町内から発見された化石について紹介した．

■町民交流フェスタでのブース出展

【期 日】11月13日（日）

【場 所】沼田町生涯学習総合センター「ゆめっくる」

【参加者】町民33名

【内 容】デスモスチルス復元骨格の展示と解説，ミニ発掘体験を提供した．

■沼田小学校「ぬまた学」への出前授業

【期 日】2023年2月1日（水）

【場 所】沼田小学校

【参加者】小学4年生

【講 師】長野学芸員

【内 容】長野学芸員が，「化石館の世界一」というテーマで，ヌマタネズミイルカやタカハシホタテ化石を紹介した．

(5) 体験メニュー

化石体験館内実習室にて下記メニューを体験できる。令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため館内での体験メニューの提供は4月29日（金）～5月15日（日）のみ実施した。その他の期間は館内で発掘体験キッドの販売を行い、自宅で発掘体験ができるようにした。

・ミニ発掘 化石/原石/磨石

アンモナイトやサメの歯などの小さな化石や水晶などの鉱物の原石、磨石を埋め込んだ人造ノジュールを掘って中身を取り出すタイケンメニュー。有料入館者全員にミニ発掘を1回提供。1回に24名まで可能。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約15分

・ハイグレードミニ発掘 化石/クリスタル

通常のミニ発掘よりも質の高い岩石を用いた体験メニュー。入館料と別料金で、1回600円。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約15分

・ウルトラグレードミニ発掘 化石/クリスタル

岩石が1つ埋め込まれた通常のミニ発掘に対し、化石や鉱物が複数個埋め込まれている体験メニュー。入館料と別料金で、1回1,000円。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約20分

(6) 講演

・ヌマタネズミイルカ新復元骨格完成記念講演会 ヌマタネズミイルカシンポジウム

【期 日】5月7日（土）

【場 所】ほろしん温泉ほたる館源氏の宿 2階クリスタルホール

【参加者】66名

【講 師】一島啓人氏（福井県立恐竜博物館）、新村龍也氏（足寄動物化石博物館）、木村方一名誉館長、田中嘉寛特別学芸員、長野あかね学芸員

【内 容】2019年より制作していたヌマタネズミイルカの新たな復元骨格を一般公開した。講演では、監修の一島氏より新旧の復元の変化を、復元画制作の新村氏よりヌマタネズミイルカの復元画制作について、木村名誉館長より沼田の化石の歴史について、田中特別学芸員より沼田の鯨類化石について、そして、長野学芸員よりヌマタネズミイルカを軸に展示改修した新たな化石体験館の展示について紹介した。



写真：シンポジウムでの講演風景。

（６）教育普及を目的とした執筆など

広報誌・マスメディアでの執筆

- ・2022年9月 ほっかいどう恐竜・化石ネットワーク制作の「ほっかいどう恐竜・化石カレンダー」に、長野学芸員がヌマタネズミイルカについての解説文、施設紹介文を投稿。

2-3. 広報出版活動

■広報誌

『沼田町化石館だより』を10回発行。体裁はA4版両面モノクロ印刷で、毎回1400部印刷し、町内の全世帯に配布の他、化石体験館での配布を行った。カラー版は当館ホームページ及び沼田町教育委員会ブログで公開中。

- ・124号 化石体験館オープン告知、シンポジウム案内。
- ・125号 化石体験館オープニングトーク実施報告、3分でわかるヌマタネズミイルカ①。
- ・126号 タカハシホタテ紹介、3分でわかるヌマタネズミイルカ②。
- ・127号 化石採取会実施報告、ヌマタネズミイルカ紹介、3分でわかるタカハシホタテ①。
- ・128号 学童保育受け入れ報告、3分でわかるタカハシホタテ②。
- ・129号 化石体験館展示リニューアル紹介、貝化石の紹介「幌新太刀別川の甘美なるグルメたち」
- ・130号 化石体験館ガイドブック紹介、沼田中学校職場体験報告。
- ・131号 町民交流フェスタへの参加報告。
- ・132号 閉館中の学芸員の仕事紹介。
- ・133号 沼田小学校「ぬまた学」での授業。令和5年度開館にむけて。

■オンラインでの広報活動

化石体験館ホームページ、SNS（フェイスブック等）を通して適宜広報活動を行っている。最新のお知らせや、イベント情報などを掲載。

2-4. 研究

■プロジェクトの進捗と成果

博物館のデジタルアーカイブの構築のために、化石館の所蔵する鯨類化石やモササウルス、現生ネズミイルカの耳骨のCT撮影を行い、3Dデータを制作した。今後も継続して所蔵標本のデジタルデータを取得する。

2021年度に完成したヌマタネズミイルカの新復元骨格について、日本古生物学会2022年年会・総会にて、ポスター発表を行った。学会発表の内容は、化石体験館の常設展示室に展示として反映させた（p1）。

古生物学の研究は、ヒゲクジラの研究(p2,3)とハクジラの研究(p4)が学術誌に掲載された。ヒゲクジラ類の頭の形と食べ方の関係性から、セミクジラとミナミコセミクジラが独立して連続濾し取りの食性を得たことを明らかにした。また、ライスクジラなど食性が不明の種に対して、頭の形から食性の復元をおこなった。沼田にはヌマタナガスクジラがいる。本研究ではヌマタナガスクジラではなく、近縁のナガスクジラ科を中心に考察したが、研究を応用することでヌマタナガスクジラの食性など明らかにできたら、新しい知見に基づいて展示を更新できるかもしれない。ほか、絶滅危惧種のセミクジラの化石を報告した。ハクジラ類のノトケタスについてアルゼンチンやニュージーランドと共同研究をおこなった。沼田から産出した鯨類化石は多くあるが、クリーニングがおわった化石は2019年までに論文として出てきた。他の化石は、クリーニングが完了しておらず研究できる状態にない。石から取り出され、化石があらわになって、研究できる段階にすることが、今後の課

題である。2022 年度はハクジラ化石のクリーニングを進めた。頭は沼田で作業を進めており、2025 年ごろに作業が終わる見込み。耳は特別学芸員が作業をすすめており 2023 年度には完了する見込みである。

研究論文 publications

(p1) 長野あかね・一島啓人 (2022) スマタネズミイルカの全身復元骨格作製—最新研究に基づく復元の再検討
一. 日本古生物学会 2022 年年会・総会 (ポスター発表)

(p2) Tanaka, Y., 2022: Rostrum morphology and feeding strategy of the baleen whale indicates that right whales and pygmy right whales became skimmers independently. *Royal Society Open Science*. 10.1098/rsos.221353.

(p3) Tanaka, Y. and Taruno, H., 2022: First record of a right whale fossil from the pre-historic period of Japan. *Aquatic Mammals*. vol, 48, p. 255–261.

(p4) Viglino, M., Buono, M.R., Tanaka, Y., Cuitiño, J.I. and Fordyce, R.E., 2022: Unriddling an old dolphin: platanistoid *Notocetus vanbenedeni* Moreno, 1892 from the early Miocene of Patagonia (Argentina). *Journal of Systematic Paleontology*. vol, 20, p. 1–41.

2 - 5. 資料管理

■レプリカ作製

スマタネズミイルカの貸出用の復元骨格作製を行った。

■資料保存

以下の資料は CT 及びマイクロ CT データを取得した。

・NFL 24 モササウルス頭骨

■化石産出地保護

幌新太刀別川はスマタネズミイルカやタカハシホタテ化石等の良質な化石産出地として知られており、沼田町教育委員会では幌新太刀別川を町の文化財として指定することで化石産出地を管理してきた。しかし、幌新太刀別川では無許可による化石採取、持ち出しが依然として行われており化石産出地の荒廃が進んでいる。

この状況をうけ、沼田町教育委員会では化石館を主体として令和 3 年度より化石産出地及び化石の保護・保全体制を再検討し、町内における体験学習や学術調査等を目的とした地質調査・化石発掘を審査、承認することになった。

申請者は年報に付属の別紙 1～3『地質調査・化石発掘承認申請書』をコピー、または以下 URL より用紙のダウンロードが必要である。必要事項の記載後、返信用封筒を同封のうえ沼田町教育委員会へ申請書を送付するか、申請書を Fax で送信し、教育委員会による申請者への承認証の返信をもって正式に交付される（申請書は PDF/Word ファイル対応）。

沼田町化石館公式ホームページ <https://numata-kaseki.sakura.ne.jp>

3. 運営管理

3-1. 化石体験館利用状況

		5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	年間合計
利用者数		900 人	738 人	1,002 人	1,543 人	849 人	709 人	5,741 人
無料利用者	幼 児	20	6	0	14	2	9	51
	学 生	34	6	0	96	88	15	239
	一 般	52	40	0	107	52	66	317
	小 計	106	52	0	217	142	90	607
観覧のみ利用者	幼 児(0)	0	0	0	26	20	7	53
	学 生(100)	0	0	0	35	4	6	45
	一 般(300)	0	201	301	450	244	231	1,427
	小 計	0	201	301	511	268	244	1,525
通常利用者	幼 児(0)	67	45	53	66	54	47	332
	学 生(300)	226	114	163	233	143	129	1,008
	一 般(500)	344	139	226	219	120	112	1,160
	小 計	637	298	442	518	317	288	2,500
団体利用者	幼 児(0)	19	20	19	24	4	5	91
	学 生(200)	45	54	118	142	42	30	431
	一 般(400)	93	113	122	131	76	52	587
	小 計	157	187	259	297	122	87	1,109

※4 月利用分は5 月に、11 月利用分は10 月にそれぞれ含まれる。

3-2. 組織と職員

【令和4 年度職員構成】（令和5 年3 月31 日現在）

名 誉 館 長 木村 方一 （北海道教育大学名誉教授）
 館 長 春山 顕一 （教育委員会参事兼務）
 学 芸 員 松井 佳祐
 学 芸 員 長野 あかね
 特別学芸員 田中 嘉寛 （大阪市立自然史博物館学芸員）

教育委員会事務局兼務

主 幹 斉藤 真二
 社会教育 主 事 和田 章人
 生涯学習支援員 木次 大介

化石体験館

会計年度任用職員 石崎 麻衣子
 会計年度任用職員 林 由美
 会計年度任用職員 児見山 未友姫

レプリカ工房

会計年度任用職員 高山 陽子
 会計年度任用職員 吉村 輝美

2023 年度

The year of 2023

2. 事業

2-1. 展示

(1) 常設展示

■ヌマタネズミイルカ、ヌマタナガスクジラ、ヌマタカイギュウ、モササウルス、および首長竜の復元骨格模型.

■タカハシホタテをはじめとする新生代軟体動物、植物化石、生痕化石、およびアンモナイトをはじめとする中生代白亜紀軟体動物化石の実物化石.

■実物化石や岩石にさわることのできる「さわれる展示」.

(2) 企画展

収蔵庫移動のため中止.

(3) 特別展

夏季に実施. 開館 15 周年にあわせた新展示スペース「進化の径」にて、「鯨類の進化」をテーマに実施.

(4) 展示改修

カイギュウコーナーの展示改修を行った. カイギュウの系統、生態を紹介する展示パネルを制作した.

(5) 展示協力

■三笠市立博物館 2023 年度特別展「復元」展

【開催場所】三笠市立博物館

【開催期日】7月15日(土)～10月9日(月)

ヌマタネズミイルカ旧復元、およびタイプ標本レプリカを貸出.

■「わけあって絶滅しました。」ポップアップ展示

【開催場所】沼田町図書館

【開催期日】10月26日(木)～11月13日(月)

沼田町化石館所蔵の実物化石、レプリカ、およびフィギュアを貸出.

2-2. 教育普及

自然科学や化石にふれあうことを目的とした普及行事を、児童生徒から大人までを対象に実施している.

(1) 化石採取会

幌新太刀別川にてタカハシホタテなどの化石を1つ採取する. 合計32名が参加した.

- ・第1回 【期日】7月22日(土) 【参加者】16名
- ・第2回 【期日】7月30日(日) 【参加者】16名

(2) ジュニア化石クラブ

子どもたち自らが、関心をもってより深く学ぶことにより新たな気づきや興味を引き起こすことを目的に実施している。令和5年度は参加者不在の為中止。

(3) 学校等団体受け入れ

化石体験館では社会見学や修学旅行等の学校行事、および団体の受け入れを行っている。

【内 容】学芸員の解説による館内見学、ミニ発掘体験を行った。

【講 師】松井学芸員、長野学芸員

(4) 町内における普及活動

■新規赴任教職員地域研修受け入れ

【期 日】7月27日(木)

【参加者】新たに沼田町に赴任した沼田小中学校の教諭7名

【講 師】松井学芸員、長野学芸員

【内 容】町内化石産地と、化石体験館の見学を学芸員案内の元行った。

■沼田小学校化石授業

【期 日】10月26日(木)

【参加者】沼田小学校、小学6年生12名

【講 師】長野学芸員

【内 容】化石体験館にて沼田町内で発見された化石について学習した。

■沼田中学文化祭発表取材受け入れ

【期 日】7月28日(金)

【参加者】沼田中学校、1～3年生13名

【講 師】松井学芸員

【内 容】沼田町の文化や歴史について、化石やSLクラウドスを用いて解説した。取材の成果は、9月9日(土)に開催の沼田中学の文化祭で発表された。

■沼田中学校職業体験

【期 日】10月4日(水)

【場 所】化石収蔵庫、レプリカ工房、化石体験館

【参加者】沼田中学校、中学2年生2名

【内 容】長野学芸員の解説のもと、化石収蔵庫、および化石体験館を見学した。

■「沼田っ子の夢応援事業」

【期 日】10月18日（水）

【場 所】宿泊交流センター「夢未来」

【参加者】沼田町立沼田小学校，小学5年生

【講 師】長野学芸員

【内 容】化石館の活動と，町内から発見された化石について紹介した。

■町民交流フェスタでのブース出展

【期 日】11月12日（日）

【場 所】沼田町生涯学習総合センター「ゆめっくる」

【参加者】町民約50名

【内 容】ヌマタネズミイルカの復元骨格を展示し，ミニ発掘を提供した。

■沼田小学校「ぬまた学」への出前授業

【期 日】2024年2月14日（水）

【場 所】沼田小学校

【参加者】小学4年生

【講 師】長野学芸員

【内 容】長野学芸員が，「太古の沼田町」というテーマで，ヌマタネズミイルカやタカハシホタテ化石など沼田が持つ世界一について紹介した。

（5）体験メニュー

化石体験館内実習室にて下記メニューを体験できる。令和5年度は展示替えのため館内で発掘体験キッドの販売を行い，自宅で発掘体験ができるようにした。

・ミニ発掘 化石/原石/磨石

アンモナイトやサメの歯などの小さな化石や水晶などの鉱物の原石，磨石を埋め込んだ人造ノジュールを掘って中身を取り出すタイケンメニュー。有料入館者全員にミニ発掘を1回提供。1回に24名まで可能。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約15分

・ハイグレードミニ発掘 化石/クリスタル

通常のミニ発掘よりも質の高い岩石を用いた体験メニュー。入館料と別料金で，1回600円。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約15分

・ウルトラグレードミニ発掘 化石/クリスタル

岩石が1つ埋め込まれた通常のミニ発掘に対し，化石や鉱物が複数個埋め込まれている体験メニュー。入館料と別料金で，1回1,000円。

【実施場所】化石体験館 【所要時間】約20分

（６）講演

・沼田町化石体験館開館１５周年記念講演会「むかしといまのネズミイルカまみれ」

【期 日】１０月１５日（日）

【場 所】ほろしん温泉ほたる館源氏の宿 ２階クリスタルホール

【参加者】５４名

【講 師】一島啓人氏（福井県立恐竜博物館），角川雅俊氏（おたる水族館）

【内 容】沼田町化石体験館開館１５周年を記念して，化石館が創設のきっかけとなったヌマタネズミイルカをテーマに化石と現生の専門家を招いて講演会を行った．会場内には，日本で新種記載された６種９標本のネズミイルカ化石と，現在日本に生息する現生ネズミイルカ３種３標本を展示した．



写真：（上段左）講師の角川雅俊氏（おたる水族館）と，一島啓人氏（福井県立恐竜博物館）．
（上段右）道北地域のネズミイルカ化石標本６点．（下段左）現生ネズミイルカ標本３点．
（下段右）ヌマタネズミイルカの貸出用復元骨格とタイプ標本・第２・第３標本．

（７）教育普及を目的とした執筆など

広報誌・マスメディアでの執筆

・２０２３年６月発行の『古生物出現！空想トラベルガイド』（土屋健・著）の沼田関連ページ（p. 52-57, p. 224-229）を長野学芸員が監修した．

・２０２４年２月発行の「恐竜・化石大陸ほっかいどうオリジナルフレーム切手」（ほっかいどう恐竜・化石ネットワーク発行）の施設紹介文を長野学芸員が執筆した．

2-3. 広報出版活動

■広報誌

『沼田町化石館だより』を8回発行。体裁はA4版両面モノクロ印刷で、毎回1400部印刷し、町内の全世帯に配布の他、化石体験館での配布を行った。カラー版は当館ホームページ及び沼田町教育委員会ブログで公開中。

- ・134号 化石体験館開館15周年、年間行事。
- ・135号 化石体験館に空想トラベル。沼田の化石、出張します。
- ・136号 体験館に新エリア登場。ナイトミュージアム。
- ・137号 体験館に「海」登場。ナイトミュージアム開催しました。
- ・138号 秋の夜長のナイトミュージアム。ありがとう化石館（旧レプリカ工房）
- ・139号 15周年記念講演会、無事終了。
- ・140号 化石の道外出張。「ぬまた学」で昔の話を。
- ・141号 NHK札幌で期間限定展示。北海道の古生物がこの一冊に！。

■オンラインでの広報活動

化石体験館ホームページ、SNS（フェイスブック）を通して適宜広報活動を行っている。最新のお知らせや、イベント情報などを掲載。

2-4. 研究

■プロジェクトの進捗と成果

化石ネズミイルカの古生物学の研究は、ヒゲクジラの研究(p1, 2, 3)および博物館学の研究(p4)が学術誌に掲載された。

P1, 2はヒゲクジラ化石の研究。P3は舌骨の形からヒゲクジラ類のエサの大きさが明らかになった研究。マツバラクジラの一部であるNFL 2634（舌骨）を解析に含めたが、エサのタイプは不明だったが、少なくとも魚のような大きいエサをもつばら食べるものではないことはわかった。本標本については今後さらに分類学的な検討を加える予定だ。

P4は博物館学的研究で、競争ではなく協力を参加者同士がおこなう普及プログラムを大阪と北海道むかわ町で実施したものをまとめた。

沼田から産出した鯨類化石は多くあるが、クリーニングがおわった化石は2019年までに論文として出てきた。他の化石は、クリーニングが完了しておらず研究できる状態にない。石から取り出され、化石があらわになって、研究できる段階にすることが、今後の課題である。

研究論文 publications

P1. Tanaka, Y., Nagasawa, K. & Oba, S. (2023) A new fossil roqual aff. *Balaenoptera bertae* specimen from the Shinazawa Formation (late Pliocene to early Pleistocene), Yamagata, Japan.

Paleontological Research, 27, 324–332.

P2. Tanaka, Y., Ohara, M. & Kimura, T. (2024) A new specimen of cf. *Isanacetes laticephalus* (baleen whale) from the Oi Formation, Ichishi Group (late early Miocene) in Japan.

Paleontological Research, 28, 26–36.

P3. Tanaka, Y. (2024) A feeding organ the basihyal and thyrohyal tells which size of prey do true baleen whales (Cetacea, Chaeomysticeti) eat. *Palaeontologia Electronica*. (doi:10.26879/1311)

P4. 田中嘉寛, 2024: 話せばわかる? ―博物館における協力・対話型教育普及プログラム「かくかくしクジラ」のねらいとその実践―. むかわ町穂別博物館研究報告. vol, 39.

(p4) Viglino, M., Buono, M.R., Tanaka, Y., Cuitiño, J.I. and Fordyce, R.E., 2022: Unriddling an old dolphin: platanistoid *Notocetus vanbenedeni* Moreno, 1892 from the early Miocene of Patagonia (Argentina). *Journal of Systematic Paleontology*. vol, 20, p. 1–41.

2-5. 資料管理

■レプリカ作製

ヌマタネズミイルカの貸出用の復元骨格が完成した。

■資料保存

CT 及びマイクロ CT データを取得した。

■化石産出地保護

沼田町教育委員会では化石館を主体として令和3年度より化石産出地及び化石の保護・保全体制を再検討し、町内における体験学習や学術調査等を目的とした地質調査・化石発掘を審査、承認することになった。

申請者は年報に付属の『地質調査・化石発掘承認申請書』をコピー、または以下 URL より用紙のダウンロードが必要である。必要事項の記載後、返信用封筒を同封のうえ沼田町教育委員会へ申請書を送付するか、申請書を Fax で送信し、教育委員会による申請者への承認証の返信をもって正式に交付される（申請書は PDF/Word ファイル対応）。

沼田町化石館公式ホームページ <https://numata-kaseki.sakura.ne.jp>

3. 運営管理

3-1. 化石体験館利用状況

		5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	年間合計
利用者数		673 人	360 人	1,104 人	1,032 人	477 人	431 人	4,077 人
無料利用者	幼 児	8	14	26	13	22	7	90
	学 生	16	10	58	39	40	46	209
	一 般	36	48	109	99	55	69	416
	小 計	60	72	193	151	117	122	715
優待利用者	幼 児(0)	14	9	35	24	6	5	93
	学 生(100)	10	7	44	25	8	6	100
	一 般(300)	193	87	227	272	85	87	961
	小 計	217	103	306	331	109	98	1,154
通常利用者	幼 児(0)	26	4	15	30	16	14	105
	学 生(300)	125	21	55	95	29	37	362
	一 般(500)	122	39	87	103	69	89	509
	小 計	273	64	157	228	104	140	976
団体利用者	幼 児(0)	11	4	46	34	7	2	104
	学 生(200)	28	73	212	162	46	16	537
	一 般(400)	84	44	190	136	84	53	591
	小 計	123	121	448	332	137	71	1,232

※ 4 月利用分は 5 月に、11 月利用分は 10 月にそれぞれ含まれる。

3-2. 組織と職員

【令和 5 年度職員構成】（令和 6 年 3 月 31 日現在）

名 誉 館 長 木村 方一 （北海道教育大学名誉教授）

館 長 春山 顕一 （教育委員会参事兼務）

学 芸 員 松井 佳祐

学 芸 員 長野 あかね

特別学芸員 田中 嘉寛 （大阪市立自然史博物館学芸員）

教育委員会事務局兼務

主 幹 斎藤 真二

社会教育主事 和田 章人

主 査 木次 大介

化石体験館

会計年度任用職員 長井 ゆかり

会計年度任用職員 小林 広美

レプリカ工房

会計年度任用職員 高山 陽子

会計年度任用職員 安藤 祐子

別紙 1

地質調査・化石発掘承認申請書

令和 年 月 日

沼田町教育委員会

教育長 様

下記の通り沼田町内において地質調査・化石発掘を実施したいので申請します。

記

- 1 調査発掘目的：
- 2 調査発掘箇所：
- 3 調査発掘日程： 令和 年 月 日 開始
令和 年 月 日 終了予定
- 4 代 表 者： 氏名 印
住所
- 5 緊急連絡先： (電話番号は必ず記入ください)
- 6 参加人数： 名 (複数名の場合は参加者名簿を添付)
- 7 化石採取予定数： 個

承 認 証

- 1 調査発掘目的：
- 2 調査発掘箇所：
- 3 発掘調査日程： 令和 年 月 日 開始
令和 年 月 日 終了予定
- 4 化石採取予定数： 個

沼田町教育委員会 教育長

令和 年 月 日

承認証は車のダッシュボードなどの見える位置に置き、調査発掘中に携帯してください。

別紙 2

参加者名簿

氏 名	住 所	連 絡 先

別紙 3

注 意 事 項

沼田町内で地質調査、及び化石発掘を行う際は、下記の事項について参加者全員へ周知し留意するよう対応をお願いいたします。

記

○調査発掘は自己責任が原則です。天候などの情報を事前に確認し、事前に適当な装備を整えてください。

○万が一、事故や災害に遭った場合には一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

○悪天候やダムの放水時には増水等の危険性が高まるため、調査地への立ち入りを控えてくだ

さい。

○立入制限の標識がある区域には立ち入らないでください。

○河川等での火気の取り扱いには十分に注意してください。たき火、タバコの投げ捨ては行わないでください。

○ごみは必ず持ち帰ってください。また、使用した機材、標識等は、調査発掘が終わり次第撤去してください。

○沼田町内における売買目的での岩石や化石等の採取は許可しておりません。

○本承認申請書に虚偽の申告を行った場合には、法により罰せられることがあります。

○化石産出地の保護のため、発掘調査地の全景を SNS（Youtube、Facebook、Twitter 等）にアップロードする行為は控えてください。

○沼田町職員が本承認申請書の提示を求めることがありますので、調査発掘の際には承認申請書、及び承認証を携帯し、職員の指示に従ってください。

緊急時等のお問い合わせ先

沼田町教育委員会

〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南1条4丁目6番5号

直通電話：0164-35-2132

ファクシミリ：0164-35-1210

沼田町化石館年報 第 22・23 号

発行日 2025 年 9 月 30 日

発行者 沼田町化石館

執筆・編集 長野あかね・松井佳祐・田中嘉寛

〒078-2202

北海道雨竜郡沼田町南1条4丁目6番5号

沼田町生涯学習総合センター(沼田町教育委員会)

電話 0164-35-2132 Fax 0164-35-1210

Mail: kaseki@guitar.ocn.ne.jp

※本誌は沼田町化石館のホームページから pdf としてダウンロードできます